

2025年3月期  
経営戦略説明会

共英製鋼株式会社

(東証プライム：5440)

# 目次

**1**

決算説明

**2**

中期経営計画 進捗と今年度のトピックス

**3**

中計目標達成に向けた戦略

**4**

参考資料

# 目次

**1**

## 決算説明

2

中期経営計画 進捗と今年度のトピックス

3

中計目標達成に向けた戦略について

4

参考資料

# 2025年3月期 業績

- ・ 前期対比で増収減益
- ・ 4Qにベトナム北部拠点VIS社などに係る減損損失（約26億円）を計上

期間：2024年4月1日～2025年3月31日

	単位	2024年3月期	2025年3月期	前回予想	増減	
		通期	通期	通期	対前期	対予想
売上高	億円	3,210	<b>3,228</b>	3,230	+19 +0.6%	▲2 ▲0.0%
営業利益		211	<b>153</b>	150	▲57 ▲27.2%	+3 +2.2%
経常利益		210	<b>157</b>	150	▲53 ▲25.1%	+7 +5.0%
当期純利益		138	<b>108</b>	120	▲30 ▲22.0%	▲12 ▲10.1%

※ 前回予想は3Q時点の公表値

# セグメント別業績概要

- 国内鉄鋼事業：前期対比減収減益ながら、国内需要が減退する中で一定の利益水準を維持
- 海外鉄鋼事業：カナダ拠点は好調、ベトナム拠点は需要が回復基調にあり、前期対比赤字幅縮小
- 環境リサイクル事業：競合環境や設備不調、減収減益

## 売上高

(億円)

## 営業利益

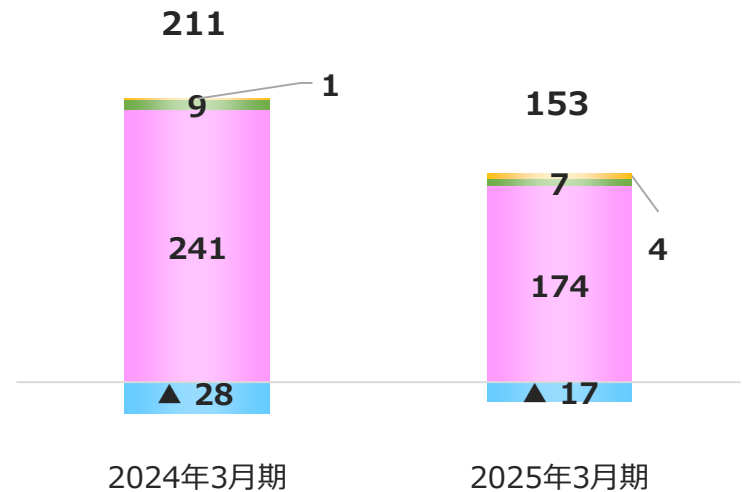
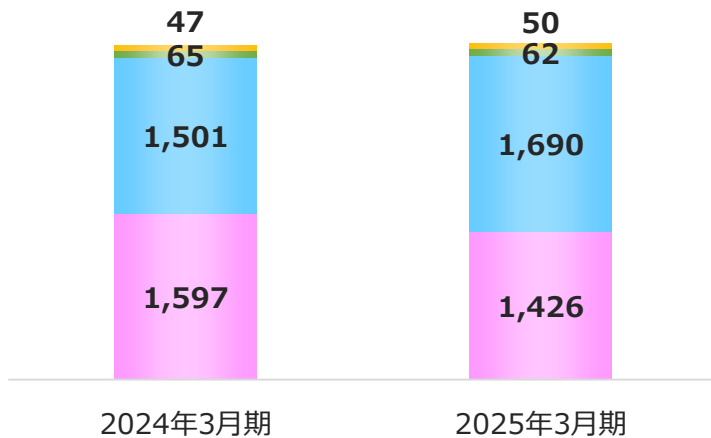
(億円)

	2024年3月期					2025年3月期					2024年3月期					2025年3月期				
	上期	3Q	4Q	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期	上期	3Q	4Q	下期	通期
国内鉄鋼事業	801	398	398	796	1,597	729	357	340	697	1,426	124	59	58	117	241	79	47	48	95	174
海外鉄鋼事業	698	393	410	803	1,501	823	411	456	867	1,690	▲ 23	▲ 10	5	▲ 5	▲ 28	▲ 16	▲ 10	9	▲ 1	▲ 17
環境リサイクル事業	32	16	17	33	65	32	16	15	31	62	4	2	4	6	9	4	2	1	3	7
その他事業	24	12	10	23	47	26	10	13	24	50	0	0	1	1	1	2	1	1	2	4
合計	1,555	820	835	1,654	3,210	1,610	794	825	1,618	3,228	99	48	63	111	211	59	38	56	94	153

※ 営業利益合計との差異は、消去または全社費用分

3,210

3,228



国内鉄鋼事業 海外鉄鋼事業 環境リサイクル事業 その他の事業

# 2026年3月期 業績予想

- ・ 中期経営計画「NeXuS II 2026」の2年目  
2025年3月期 対比で増収増益を予想

	単位	2025年3月期			2026年3月期			増減率 (対前年実績)
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	
売上高	億円	1,610	1,618	3,228	1,580	1,820	<b>3,400</b>	(+5.3%)
営業利益		59	94	153	95	95	<b>190</b>	(+23.9%)
経常利益		61	96	157	90	90	<b>180</b>	(+14.3%)
当期純利益		51	57	108	60	60	<b>120</b>	(+11.2%)

為替前提：1USD=150円

# セグメント別通期業績予想

- 国内鉄鋼事業は、国内需要の大幅な回復はないと見込み、前期対比ほぼ横ばいとなる見通し
- 海外鉄鋼事業は、ベトナム拠点、米国拠点で収支均衡、好調なカナダ拠点の貢献により通期営業利益30億円の見通し

## 売上高

(億円)

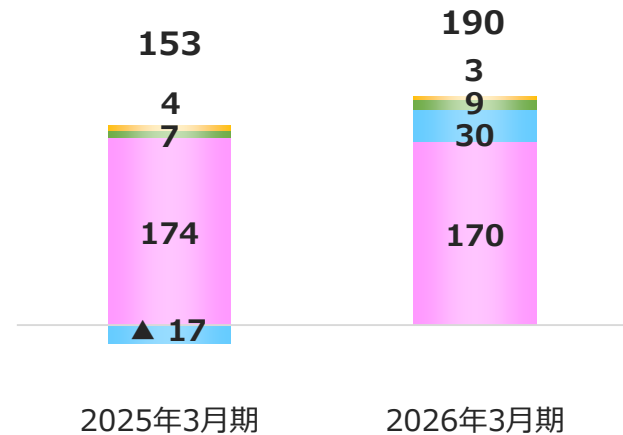
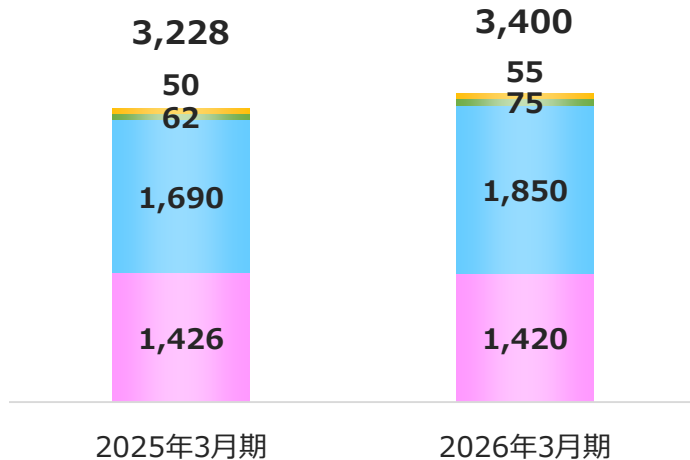
	2025年3月期			2026年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
国内鉄鋼事業	729	697	1,426	685	735	1,420
海外鉄鋼事業	823	867	1,690	830	1,020	1,850
環境リサイクル事業	32	31	62	35	40	75
その他事業	26	24	50	30	25	55
合計	1,610	1,618	3,228	1,580	1,820	3,400

## 営業利益

(億円)

	2025年3月期			2026年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
	79	95	174	85	85	170
	▲ 16	▲ 1	▲ 17	13	17	30
	4	3	7	4	5	9
	2	2	4	1	2	3
合計	59	94	153	95	95	190

※営業利益合計との差異は、消去または全社費用分



国内鉄鋼事業    海外鉄鋼事業    環境リサイクル事業    その他の事業

# 目次

1

決算説明

2

**中期経営計画 進捗と今年度のトピックス**

3

中計目標達成に向けた戦略について

4

参考資料

# 「NeXuSⅡ 2026」重点方針

前中計の振り返り、外部・内部環境分析等を踏まえ、東証の求める「資本コストと株価を意識した経営」にも鑑み、次の6つを重点方針とする

## 事業の成長に向けた取り組み（成長戦略）

### 海外鉄鋼事業

世界3極体制のウエイトシフト  
による収益力強化  
(北米事業強化と  
ベトナム事業再構築)

### 国内鉄鋼事業

国内4事業所の連携強化と  
関東圏におけるプレゼンス向上  
(川上・川下戦略の実現によ  
る事業基盤の強化)

### 環境リサイクル事業

電炉溶融処理の先駆者  
としてのプレゼンス向上

## 成長を支える基盤強化

### 無形資産投資

「100年企業」を  
目指した  
ESG経営

### 経営基盤の強化

# 「NeXuS II 2026」の進捗状況

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期
	実績	実績	予想	最終年度目標
売上高	3,210億円	3,228億円	3,400億円	3,800億円
経常利益	210億円	157億円	180億円	250億円
当期純利益	138億円	108億円	120億円	175億円
出荷量	307万トﾝ	313万トﾝ	342万トﾝ	400万トﾝ体制
（国内）	158万トﾝ	145万トﾝ	150万トﾝ	160万トﾝ
（海外）	149万トﾝ	168万トﾝ	192万トﾝ	240万トﾝ
ROE	7.4%	5.4%	5.8%	8%以上
自己資本比率	54.9%	57.5%	55.5%	50%以上
ネットDELシオ	0.18倍	0.10倍	0.17倍	0.5倍以下
配当性向	28.3%	36.2%	32.6%	30~35%
設備投資・事業投資	115億円	171億円	179億円	-
	-	1,100億円／3年		

# 「NeXuS II 2026」初年度の総括 1

中計初年度は国内・海外ともに想定以上に厳しい事業環境となり、当初目標は未達だが、相応の成果があったと評価

## ■ 国内鉄鋼事業

- ・ 2024年問題（建設・物流現場の人手不足や働き方改革）、猛暑による工期の遅延・長期化により国内需要が減退する中、メタルスプレッドを維持しながらシェア18%以上を確保。相応に健闘と評価

## ■ 海外鉄鋼事業

### ① ベトナム事業

- ・ 供給過剰による安値販売の影響で競争環境は依然厳しく赤字が継続したが、需要は回復基調にあり出荷量は増加、コスト削減施策の継続などにより、2023年度を底に赤字幅は縮小傾向（北部・単圧のKSVC社は黒字、南部のVKS社は黒字基調へ）

### ② 北米事業

- ・ 米国拠点は火災事故以降の操業不調が続く中、市況が軟化したため赤字継続  
短期的な施策として日本人技術者の派遣やコスト削減施策を実行、  
長期的抜本的な施策として製鋼工場新設・圧延ラインの大規模リニューアルを決定
- ・ カナダ拠点は細物鉄筋の商業生産開始などが奏功し、大幅増益で着地  
出荷ヤード拡張による拡販施策は計画通り進捗し、今年5月に竣工式を予定

# 「NeXuSⅡ 2026」初年度の総括 2

## ■ 環境リサイクル事業

- ・ コロナ特需が終了する中、医療廃棄物処理は競争環境激化などから減益

## ■ その他事業

- ・ VJE社（ベトナム鋳物事業）が過去最高益など堅調に推移
- ・ TVP社（ベトナム港湾事業）、吉年（国内鋳物事業）と合わせ、4.5億円の利益を計上

## ■ 成長を支える基盤強化

- ・ 無形資産投資のうち人的資本投資の一環として、事業所の事務所棟や厚生棟など職場環境整備を継続的に実施、また作業服も全面リニューアル
- ・ 海外研修をはじめとした現場目線に立った人材教育のレベルアップ
- ・ 従業員還元は2年連続で世間相場を上回るベアを実施、年収ベースでの処遇改善も実現
- ・ ブランド戦略では「エシカルスチール」をスタート、インナー・アウター向けに発信を強化  
イメージキャラクターとして「ウルトラマン」を起用

# 中計2年目・2025年度のトピックス ①ベトナム

## ■ 2025年6月 VIS社 新圧延ライン稼働

- ・ 同一敷地内での製鋼・圧延一貫化が実現、ベトナム事業成長への大きな布石に
- ・ 最新設備の圧延ライン（秒速44m）、直送圧延生産によるコスト競争力向上  
⇒ 製鋼・圧延一貫化により、IFメーカーとのコスト差の問題は解消の見通し
- ・ 2026年度には償却負担などが解消され厳しい競争環境に堪えられる製造拠点へ

### 新工場概要

生産能力：50万トン/年

生産品目：鉄筋（10～51mm、長さ6～12m）

出荷量：2025年度は約10万トン、その後環境次第で  
フンエン工場と合わせて80万トン超まで  
伸長可能

### 金額

投資総額：約80百万USD（約120億円）



工場 内観



工場 外観

# 中計2年目・2025年度のトピックス ②北米

## ■ Vinton Steel社 大規模設備投資

- ・ 今年夏に建設工事開始、2027年初頭 完成予定
- ・ 課題であった老朽化ミルの製造コストは劇的改善の見込み
- ・ テノバ・ポミニ・テキントGrによるグリーン・シティ・ミル1号案件
- ・ 最新の圧延技術の導入によりマイクロミルの製造コスト対比でも十二分に戦えるミルへ
- ・ 増産レベルは10万トンも、将来的には15万トン増産の35万トンミルとして堅実に利益を計上する会社に進化



当投資に係るパートナー会社トップとの会談



製品倉庫でテキサス州の公的助成決定を発表するアボットテキサス州知事

## ■ AltaSteel社 出荷ヤード完成

- ・ 細物鉄筋（2024年春より商業生産）など、鉄筋事業の拡大をにらんだ新出荷ヤードが5月に完成
- ⇒ 需要旺盛な鉄筋の機動的な生産出荷体制を構築



出荷ヤード

# 中計2年目・2025年度のトピックス ③ブランド戦略

## ■ エシカルスチールを全社展開

2025年4月より、「医療廃棄物・産業廃棄物などを処理しながら製造した鋼材で、生産から出荷までトレーサビリティを確保した製品（一部の鋼種やサイズを除くすべての品種が対象）」として全事業所で製造・販売することを発表

## ■ 「ウルトラマン」をイメージキャラクターとして起用

「エシカルスチール」の認知拡大と理解促進を図るため、キャラクターの起用を開始



特別仕様のキャンペーンタグ

©円谷プロ

# 目次

1

決算説明

2

中期経営計画 進捗と今年度のトピックス

3

**中計目標達成に向けた戦略について**

4

参考資料

# 国内鉄鋼事業：中計目標達成に向けて

## 国内鉄筋トップシェアの維持・拡大

### ① 関東（首都圏）戦略の強化

- 堅調な需要環境にある首都圏での出荷量増を目指す  
2024年3月末に統合した関東事業所のさらなる連携強化
- 高強度鉄筋やネジ節鉄筋の拡販

### ② 「エシカルスチール」全事業所展開

- 山口事業所中心の展開を、2025年4月より全事業所の取り扱いに拡大

⇒ 資源循環型社会に貢献する当社事業のイメージアップを図り出荷量増加につなげる

### ③ 川上戦略（スクラップ調達力の強化）

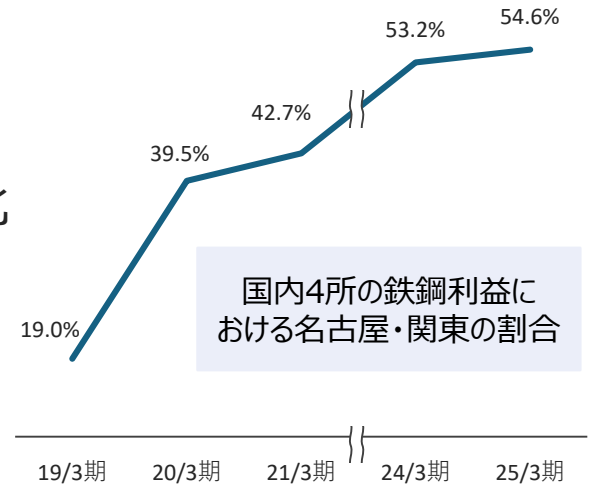
- グループ会社によるサテライトヤード（愛知県知多市）の開設
- 東洋商事（愛知県東海市）の買収

### ④ 2024年問題（物流）への対応の継続

- 中継地の拡充・倉庫の建設検討（名古屋・山口・関東）
- ドライバー不足対応：運輸を担うグループ会社の処遇改善

### ⑤ 川下戦略（加工品事業の強化）

- グループ会社の共英産業や共英加工販売との連携により加工、施工、フープ筋を強化



# 海外鉄鋼事業：中計目標達成に向けて

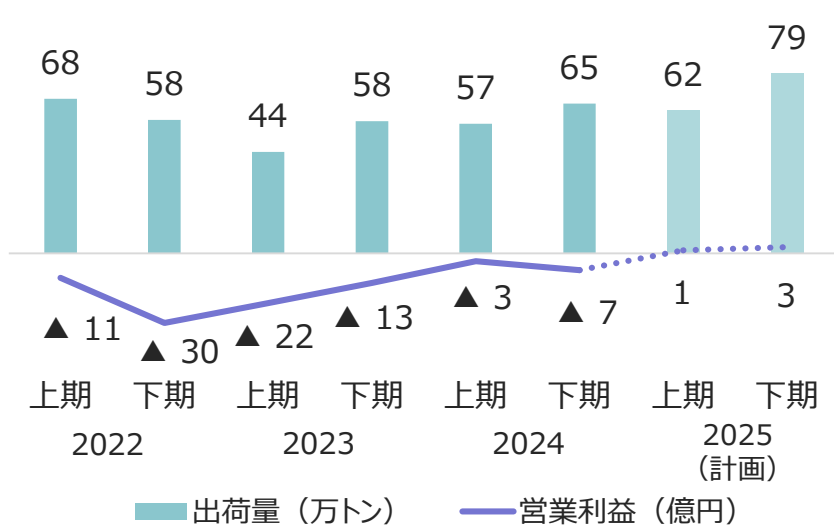
## ベトナム事業のコスト競争力強化と北米の収益力強化

### <今後の見通し・対策>

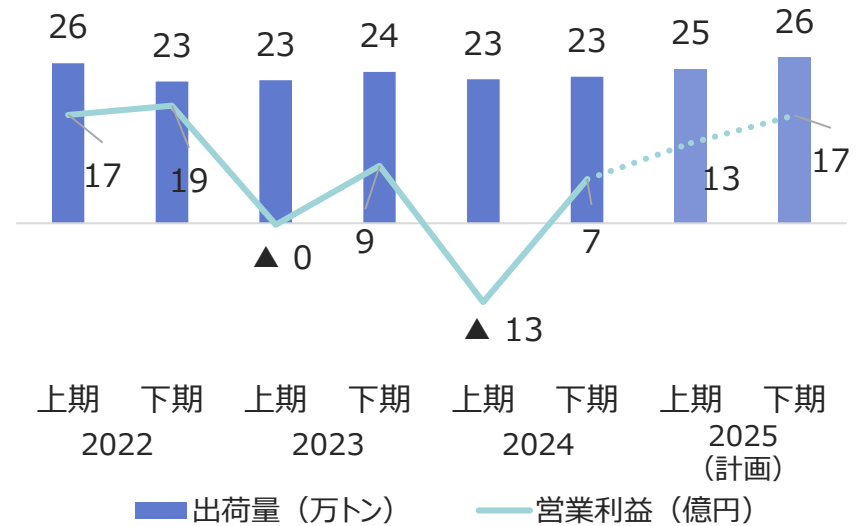
ベトナム拠点：前期に続くKSVC社の利益計上と、出荷量増加・コスト削減努力によるVKS社の黒字化により、新工場立ち上げの年で償却費増加のVISの赤字をカバーし、収支均衡となる計画 中計期間中に営業利益10～30億円を目指す

北米拠点：米国拠点は、市況の好転などを見込み、赤字脱却を目指す  
カナダ拠点は引き続き好調、エキストラ価格付の細物鉄筋をテコに出荷量増量に取り組み、北米拠点合計で営業利益30～50億円を目指す

ベトナム拠点 出荷量・営業利益推移



北米拠点 出荷量・営業利益の推移



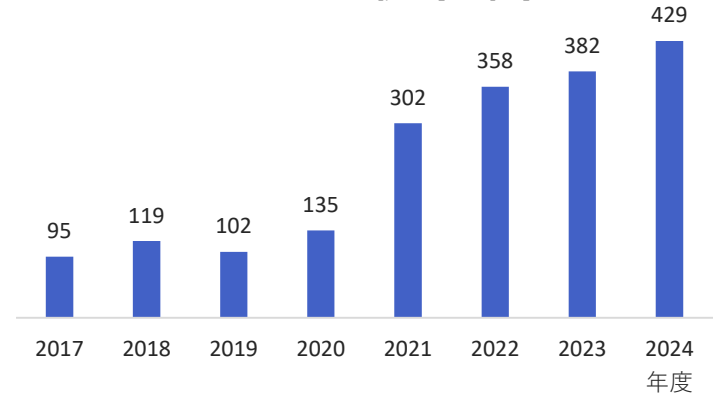
# 環境リサイクル・その他の事業：中計目標達成に向けて

## 環境リサイクル事業

### <今後の見通し・対策>

- ・ 「エシカルスチール」とのブランド一体化で「エシカル」かつ「サーキュラー」な環境リサイクル事業の取り組みをPR
- ・ 営業体制の強化
- ・ 高処理単価で需要の多いフロンガスなどの破壊処理の強化
- ・ 有害物が付着した産業廃棄物など難処理廃棄物処理の強化
- ・ 処理品目の拡充

フロン等破壊量の推移（当社） 単位：トン



フロン処理設備

## その他の事業

### <今後の見通し・対策>

- ・ ベトナム鋳物事業（VJE社）の需要は堅調、“日本品質”が高く評価され、2024年度並みの利益を計上見込み
- ・ TVP社の二期工事着手



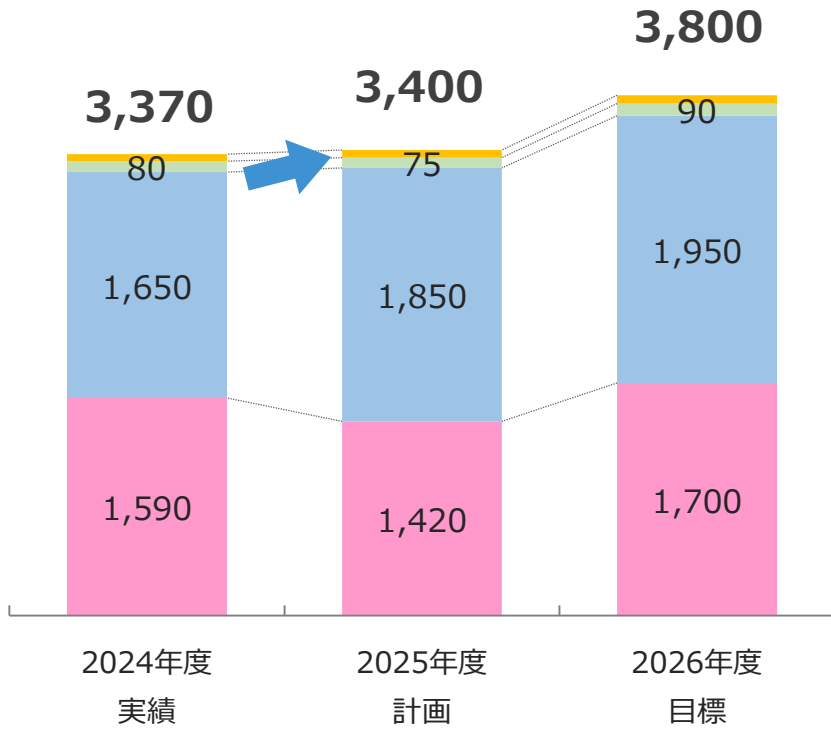
スクラップ荷下ろしの様子（TVP社）

# 中計目標：セグメント別売上高・営業利益

- 中計期間で海外鉄鋼事業の収益化を図る

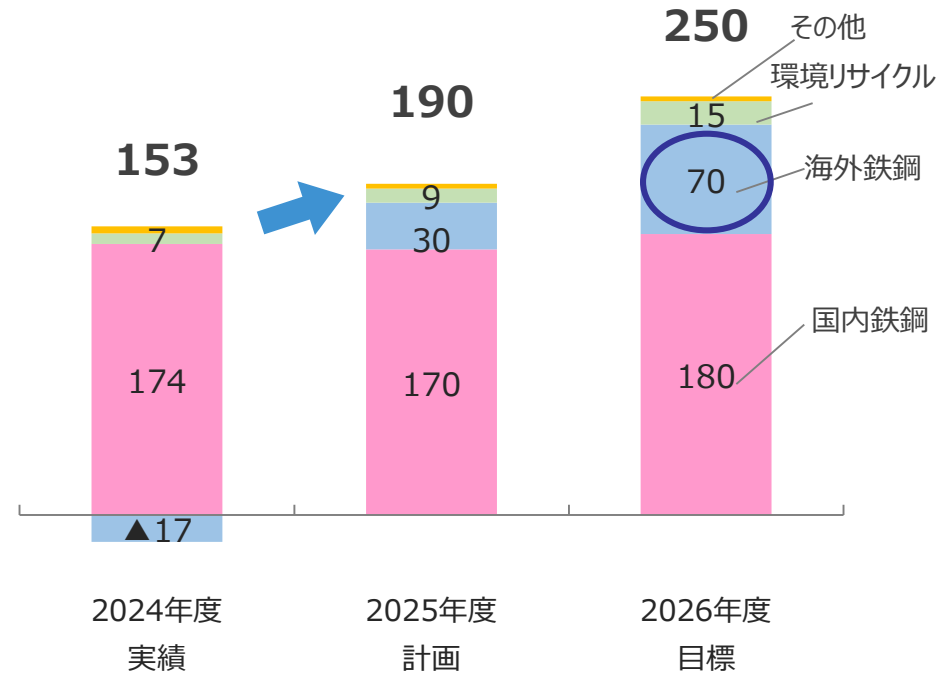
## 売上高

(億円)



## 営業利益

(億円)



※ 営業利益合計との差異は持分法損益及び連結修正

# 成長を支える基盤強化：無形資産投資（人的資本経営）

初年度については、人的資本経営を意識した各種取り組みの結果、相応の成果があったと評価

## エンゲージメントの向上を図る4つの施策テーマ

### 物質的メリット

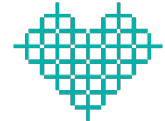
- ・ 事務所の職場環境整備を継続
- ・ 処遇の向上



山口事業所新事務所棟

### 企業理念への共感

- ・ ブランディング活動の推進
- ・ 社内への情報共有強化  
(グループ内をつなぐ取り組み)



エシカル  
スチール

### 連帯感・チームワーク

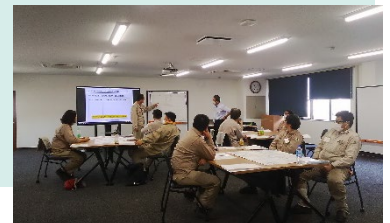
- ・ 社内旅行、ソフトボール大会など社内イベントの実施



2024年5月に開催した  
ソフトボール大会

### 自己実現

- ・ 層・職階ごとの研修を実施
- ・ 技術伝承や産学連携の取り組み



枚方事業所研修センターでの  
研修の様子

# 成長を支える基盤強化：「100年企業」を目指したESG経営

- ESGに関する取り組みは概ね計画通り進捗中

項目	主な進捗	
E（環境）に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>LNGへの燃料転換</li> <li>サステナブルテクノロジー研究センターでの電気炉スラグによる藻場の形成実験（写真）</li> <li>(株)キノテックとのダスト処理の亜鉛回収技術の共同研究・開発開始</li> </ul>	 <p>藻場形成の実験</p>
S（社会）に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>メスキュード医療安全基金や地域貢献にかかわる寄付を実施</li> <li>遊休地でのオリーブ植樹活動の継続</li> </ul>	 <p>オリーブの植樹</p>
G（ガバナンス）に関する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>取締役会の構成を刷新 取締役9名・うち社外4名（女性2名）</li> </ul>	 <p>女性役員</p> <p>社外役員</p>

# 成長を支える基盤強化：非財務KPI

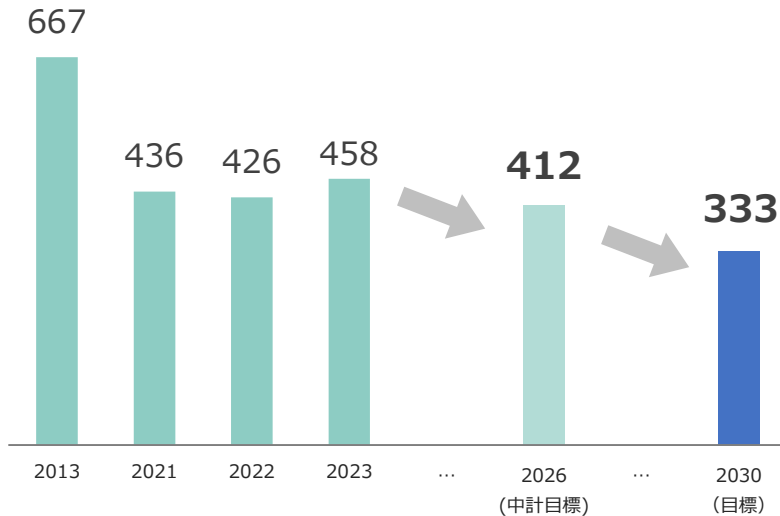
## CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた取り組み

- 2024年度のCDP調査「気候変動」「水セキュリティ」分野で「A-」評価を取得
- GXリーグに参加（24年2月）



### CO<sub>2</sub>排出量（千t-CO<sub>2</sub>）

※国内拠点



## 女性総合職・管理職比率

	2023年度	2024年度	2026年度目標
女性総合職	12.6%	<b>14.2%</b>	15.0%
女性管理職	3.0%	<b>3.6%</b>	3%以上

## 教育研修費・社会貢献支出額

	2023年度	2024年度	2026年度目標
教育研修費/人	9.7万円	<b>9.8万円</b>	15万円
社会貢献支出額	連結当期純利益 0.32%	連結当期純利益 <b>0.52%</b>	0.5%程度

※参考値

# 成長を支える基盤強化：経営基盤の強化

- ・ 経営基盤強化の取り組みも計画通り進捗中

項目	主な進捗
<p>エンジニアリング力の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内外の拠点に機動的な技術指導を実施するため、EN室を設置</li> </ul>
<p>ものづくり起点のDX推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ AI技術によるスクラップの検収システム導入</li> <li>・ スクラップ納入予約システム導入 ⇒ 荷待ち時間の削減</li> </ul> <div data-bbox="1412 772 1798 982" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1425 989 1779 1019">AIによるスクラップ検収（枚方）</p>
<p>財務基盤の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務格付けA格維持</li> <li>・ 自己資本比率 54.9% ⇒ 57.5%</li> <li>・ ネットDELレシオ 0.18倍 ⇒ 0.10倍</li> </ul>

# 資本コストと株価を意識した経営の実現

- 成長戦略の実現と期待値の向上によるROEとPERの上昇によりPBRを改善

## 現状

**PBR 0.43倍**  
(25年4月30日時点)

**ROE 5.4%**  
(25年3月期)

## 当社のPBRが低い理由

海外鉄鋼事業の  
業績の不透明感  
など

## 改善策

**PBRの改善**  
(株価純資産倍率)

=

**ROEの改善**  
(自己資本利益率)  
⇒ 8%以上

×

**PERの向上**  
(株価収益率)

## 成長戦略の実現

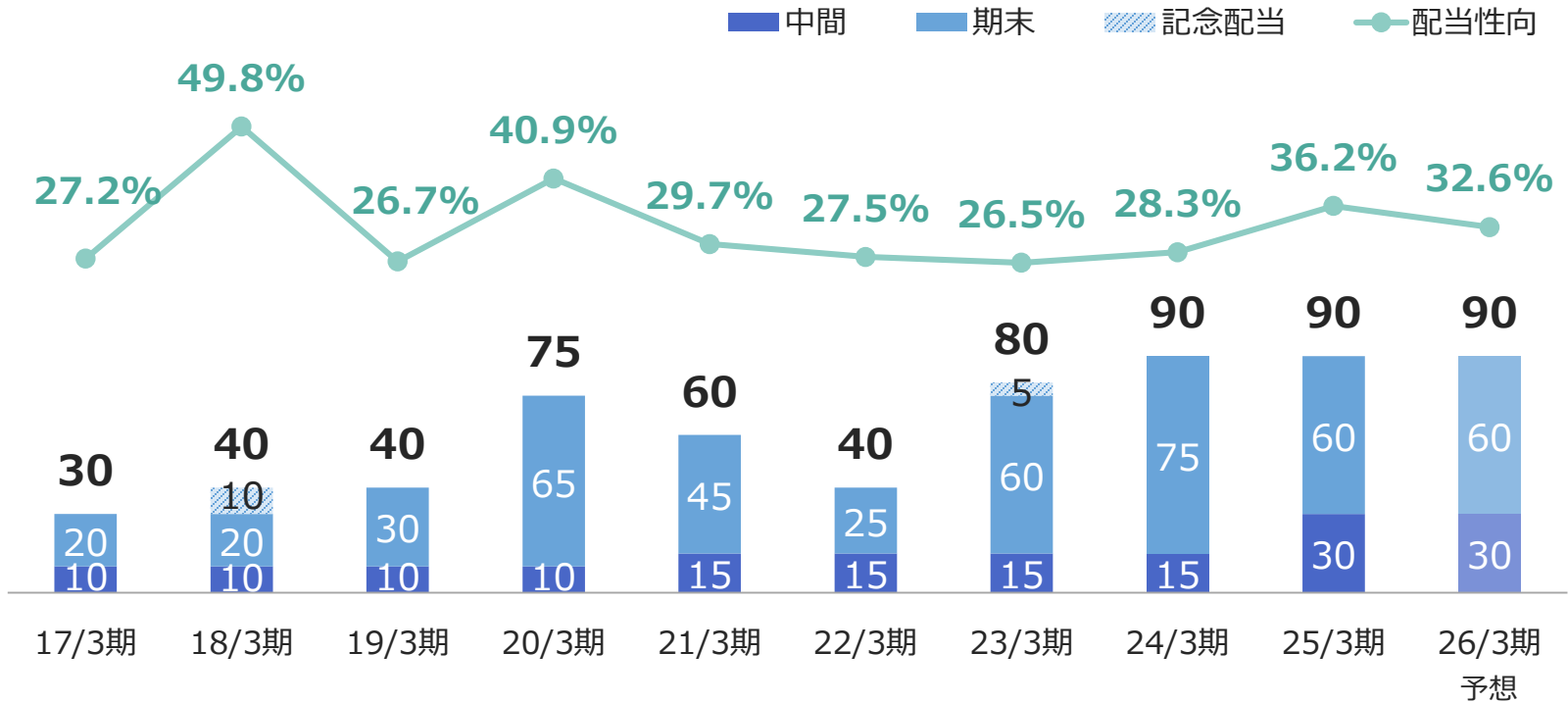
- 中期経営計画の着実な実行  
⇒ 海外事業の立て直し

## 期待値の向上

- 人的資本投資の充実
- ブランディング活動

# 配当・配当性向の推移

- ・ 2026年3月期の配当予想は1株当たり90円（中間30円、期末60円）



## 配当方針

- ・ 企業価値向上に向けた内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続
- ・ 配当性向（連結）： 30～35%
- ・ 1株当たり年間配当の下限は30円

# 当社グループにおけるトランプ関税の影響

電炉事業は基本的に地産地消のビジネスであり、各拠点の需要が堅調である限り、トランプ関税の影響は限定的と考える

## ■ 国内拠点

国内拠点の製品の輸出はほとんどなく、影響は限定的

## ■ ベトナム拠点

当社グループからの米国への鋼材輸出はないため直接的な影響はないが、ベトナム鋼材や中国鋼材の対米輸出が制限され、ベトナムの鉄鋼市況に余剰感が出る懸念、ならびに対米輸出が多いベトナム経済全体の景気が停滞する懸念がある

## ■ 米国拠点

トランプ関税により輸入材の価格下落リスクが抑えられるため、価格の上昇による利益増が期待できる。しかし、米国で製鋼工場（電気炉）の新設や圧延ラインの大規模リニューアルを計画しており、これらの設備を欧州などから輸入するため、設備投資額が増加する懸念がある

## ■ カナダ拠点

米国への鋼材輸出には一定の影響が考えられるが、カナダの報復関税により米国からの鋼材輸入が制限されるメリットもあり、トータルでは影響は相殺される

# まとめ

トランプ関税など世界経済の先行きは不透明であるが、当社の戦略は、大きなパラダイムシフト下にあっても十分機能すると考えている

1. 世界三極体制で事業リスクを分散化
2. グローカルニッチで地産地消ビジネスを追求
3. 汎用品ビジネスに必要な最適設備投資をベトナム・北米で展開中

## 留意しておくべき点

- 大規模設備投資に関わる機械設備の関税コスト増
- 為替リスク
- 世界経済全体の景気悪化

## 「NeXuS II 2026」の最終年度に向けて

ベトナム3拠点で 150～200万トン

北米2拠点で 60～70万トンの生産能力の実現 ▶ 世界 400万トン体制へ  
経常利益250億円の実現を目指す

計画の着実な実行により、企業価値の向上を図り、  
より高いレベルの株主還元、PBR改善につなげていきたい

# NeXuS

## ▶▶▶ Next Success

### 次代の成功を目指して

これまでの「鉄づくりを通じて社会に貢献する」企業から、  
これからの「サーキュラー・エコノミー社会」の中で  
資源循環型事業を通じ、社会の発展と地球環境との調和に貢献する  
“エッセンシャル・カンパニー”を目指します

### 免責事項

- 本資料に掲載されている情報には、当社に関する将来予測や業績予想が記述されていますが、これらは潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおり、将来の業績を保証するものではありません。業績結果が経営環境の変化などによって、見通しと異なったものになる可能性があることをご承知おきください。
- これらの情報を利用することで生じたいかなる損失や損害に対しても、当社は一切責任を負うものではありません。

# 目次

1

決算説明

2

中期経営計画 進捗と今年度のトピックス

3

中計目標達成に向けた戦略について

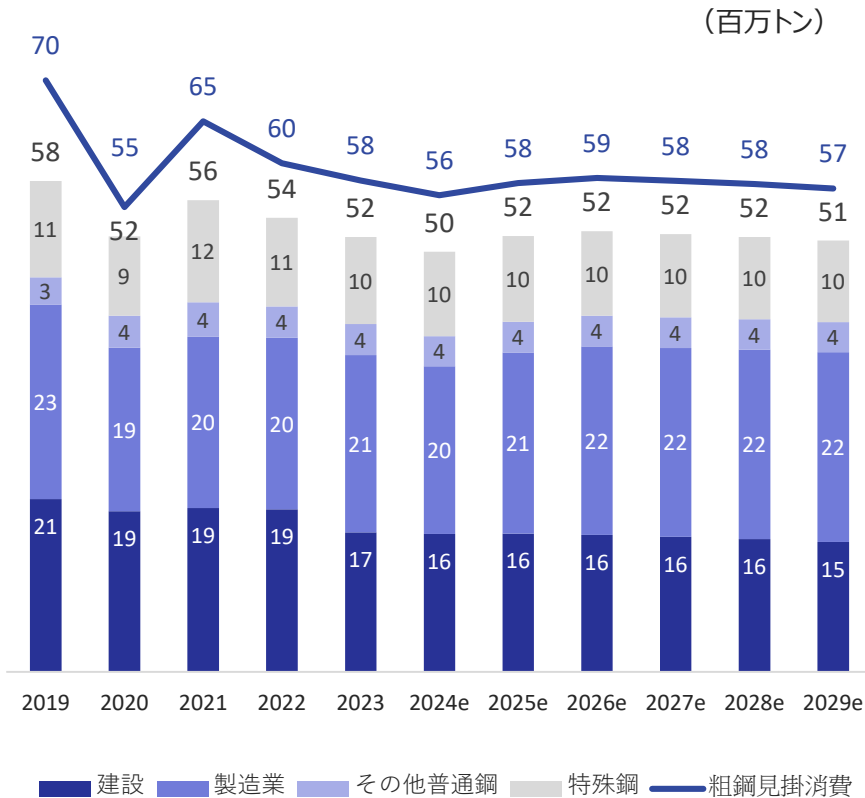
4

**参考資料**

# 参考：国内の鉄鋼需要見通し

## 国内鉄鋼需要の中期見通し

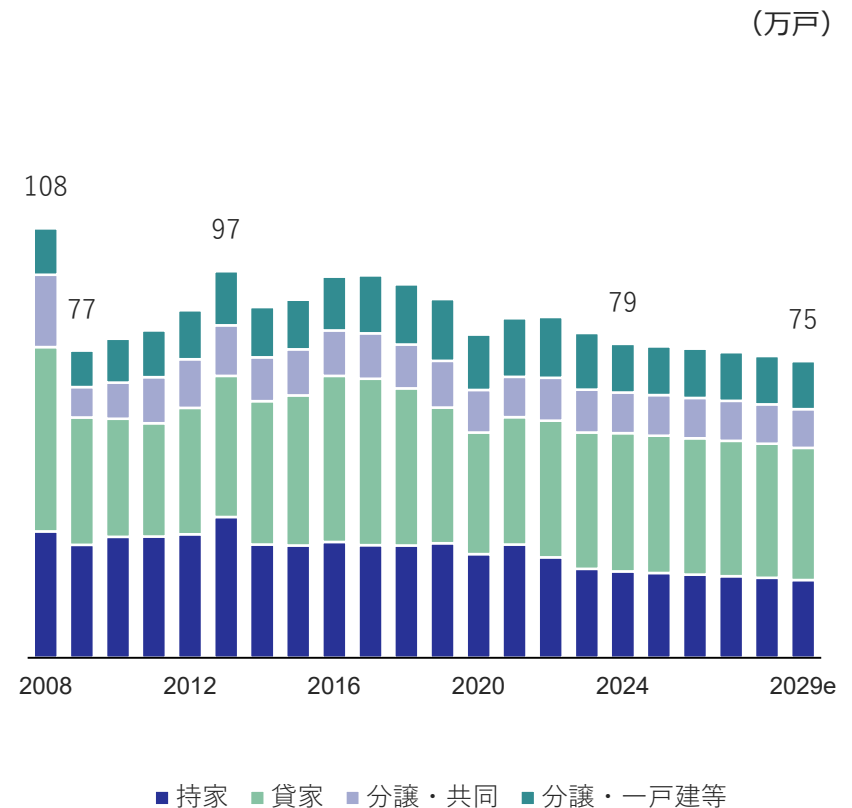
2024年は自動車・産業機械の生産や建設向けが減少したが2025年は内需回復による増加を予想。



出典：みずほ銀行

## 新設住宅着工戸数の見通し

新設住宅着工戸数は波がありながらも減少傾向にあり、2024年はリーマンショックの翌年以來、15年ぶりに80万戸割れとなった。2030年には77万戸となる見通し。



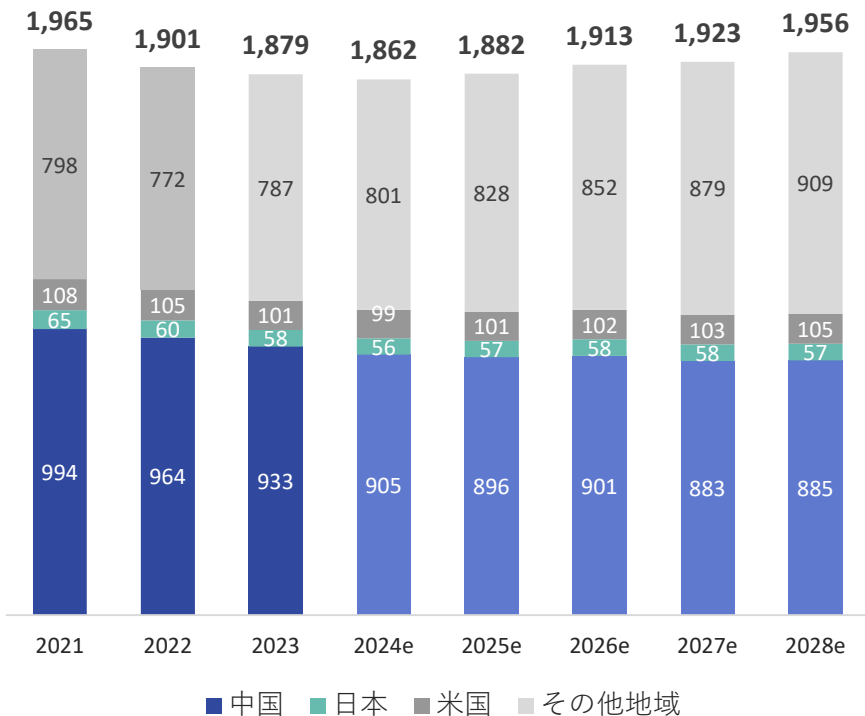
出典：みずほ銀行

# 参考：世界の鉄鋼需要 見通し 1

## 世界の鉄鋼需要

世界の鉄鋼需要は緩やかに増加し続け、2026年には過去最高の20億トンを超える見通し

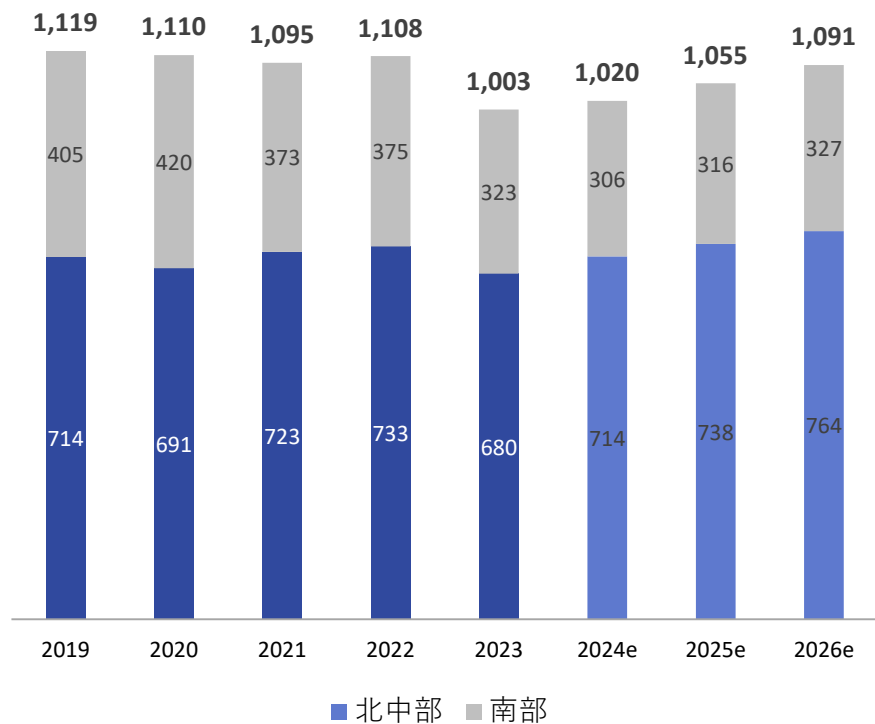
(百万トン)



## ベトナムの建設用鋼材需要

2023年は建設不況の影響により需要が減退したが、2025年以降は官主導の需要喚起により需要が回復する見通し

(万吨)



出典：みずほ銀行

出典：当社作成

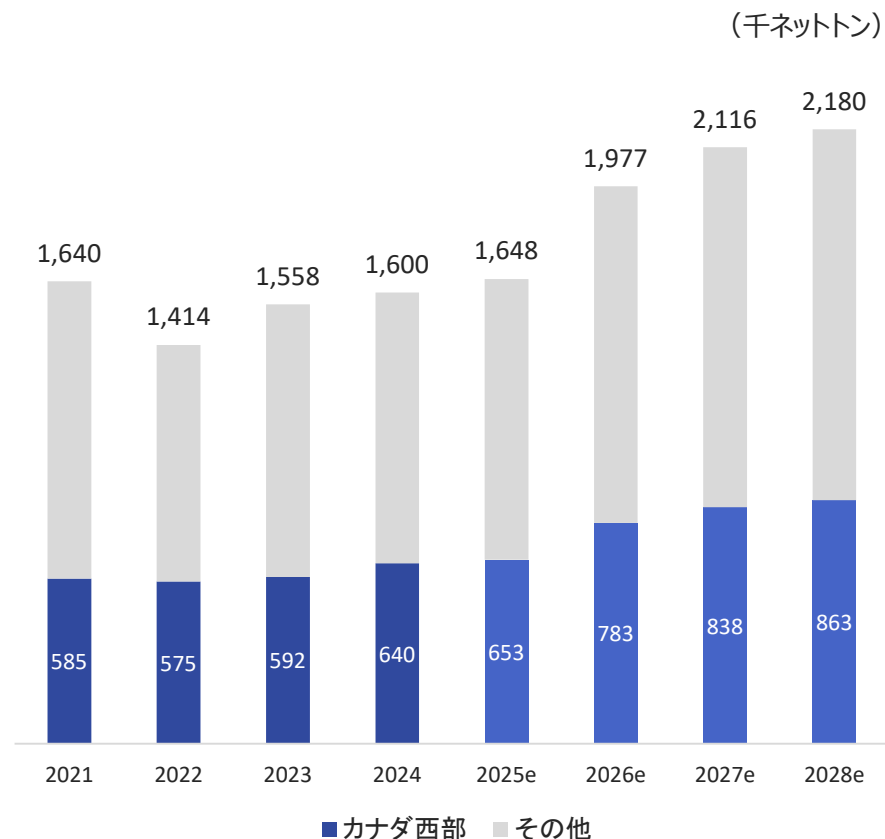
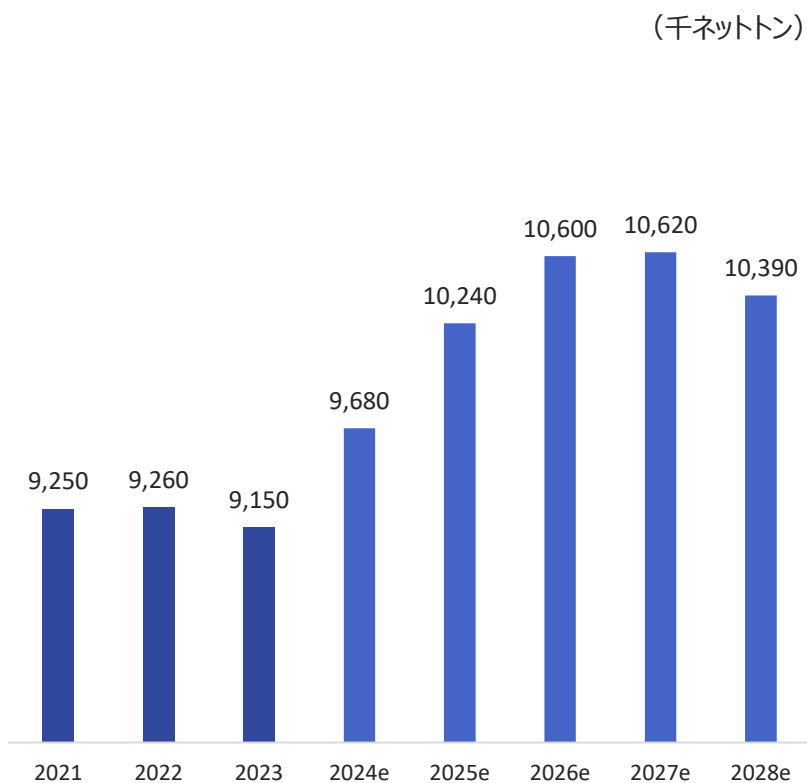
# 参考：世界の鉄鋼需要 見通し 2

## 米国の鉄筋需要

米国全体の需要予測は2025年には10,000千NTを超えると予想される

## カナダの建設用鋼材需要

2023年以降は人口増の恩恵を受け、鉄筋需要の緩やかな成長が期待される



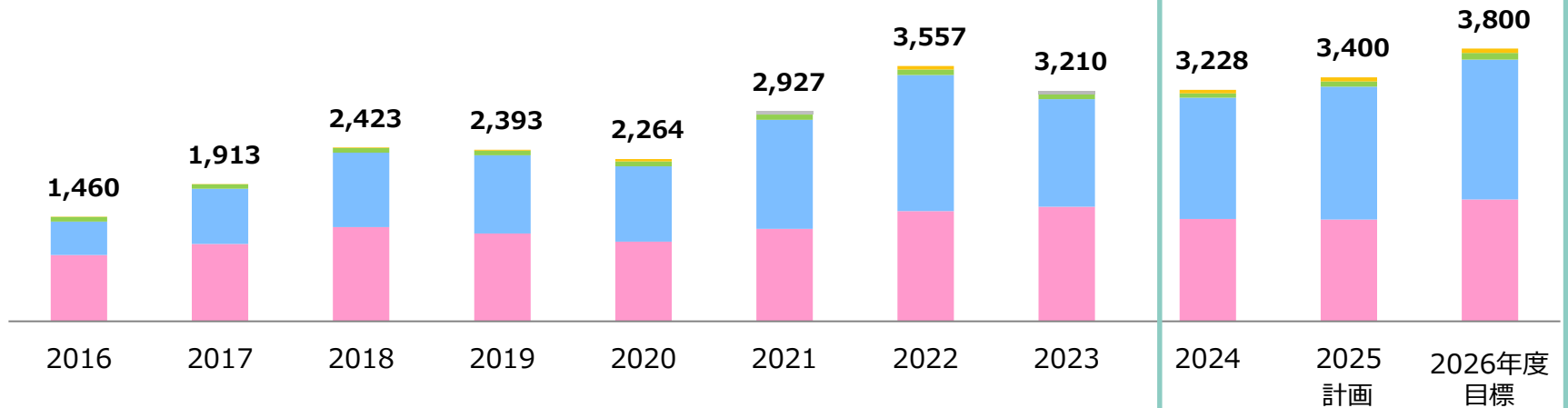
出典：Concrete Reinforcing Steel Institute(CRSI)資料

顧客ヒアリングなどを基にアルタスチール社作成

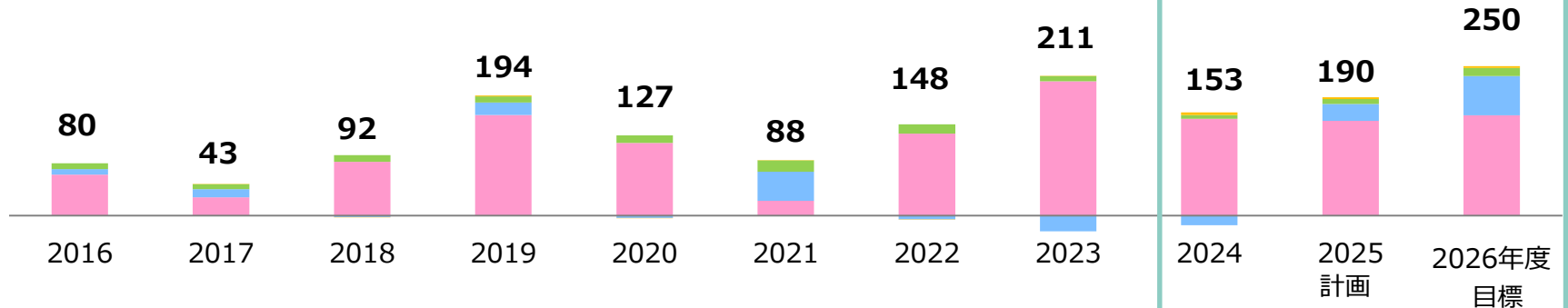
# 参考：業績の推移

## 売上高 (億円)

- 国内鉄鋼事業
- 海外鉄鋼事業
- 環境リサイクル事業
- その他事業



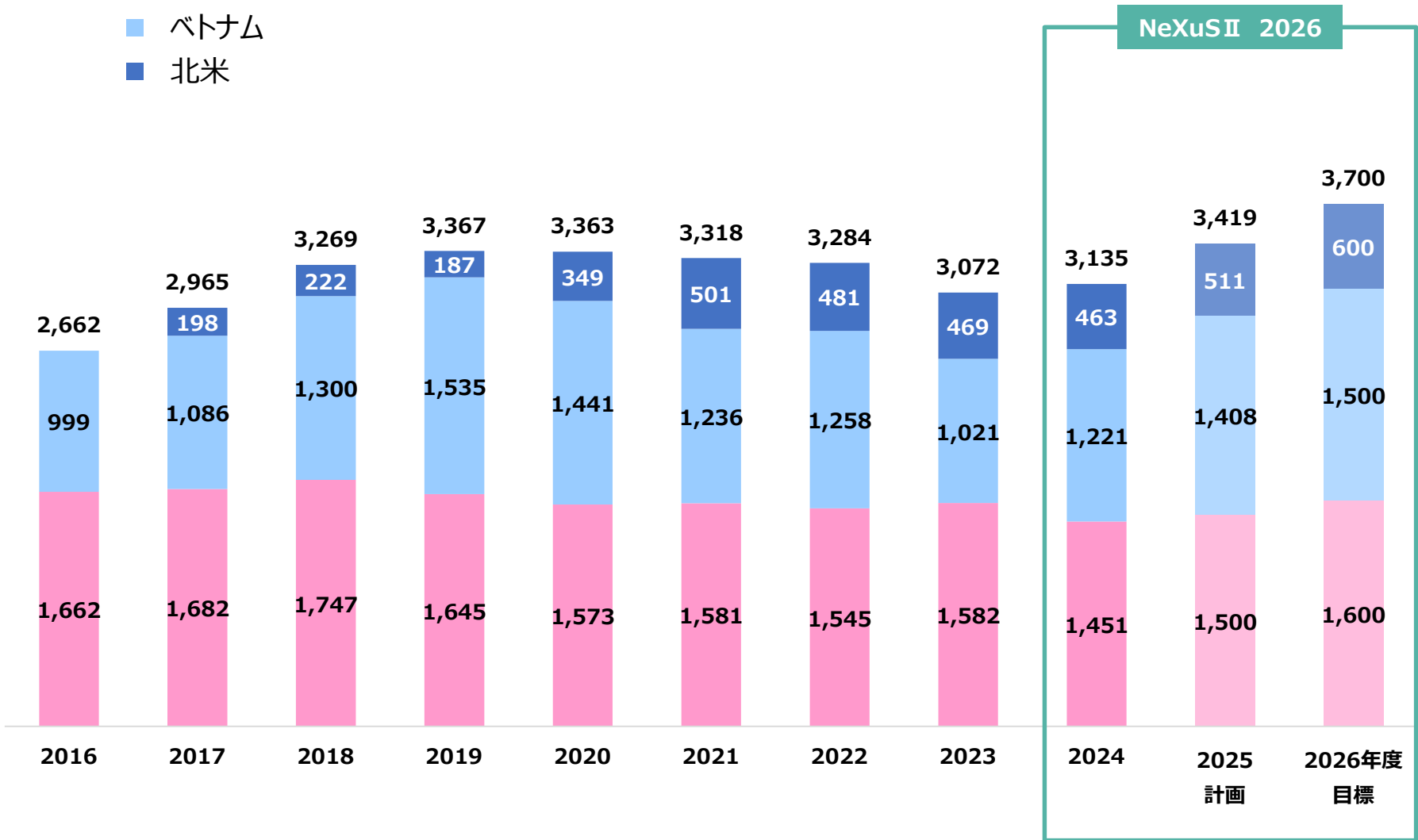
## 営業利益 (億円)



# 参考：製品出荷量の推移

- 国内（4拠点）
- ベトナム
- 北米

(千トン)

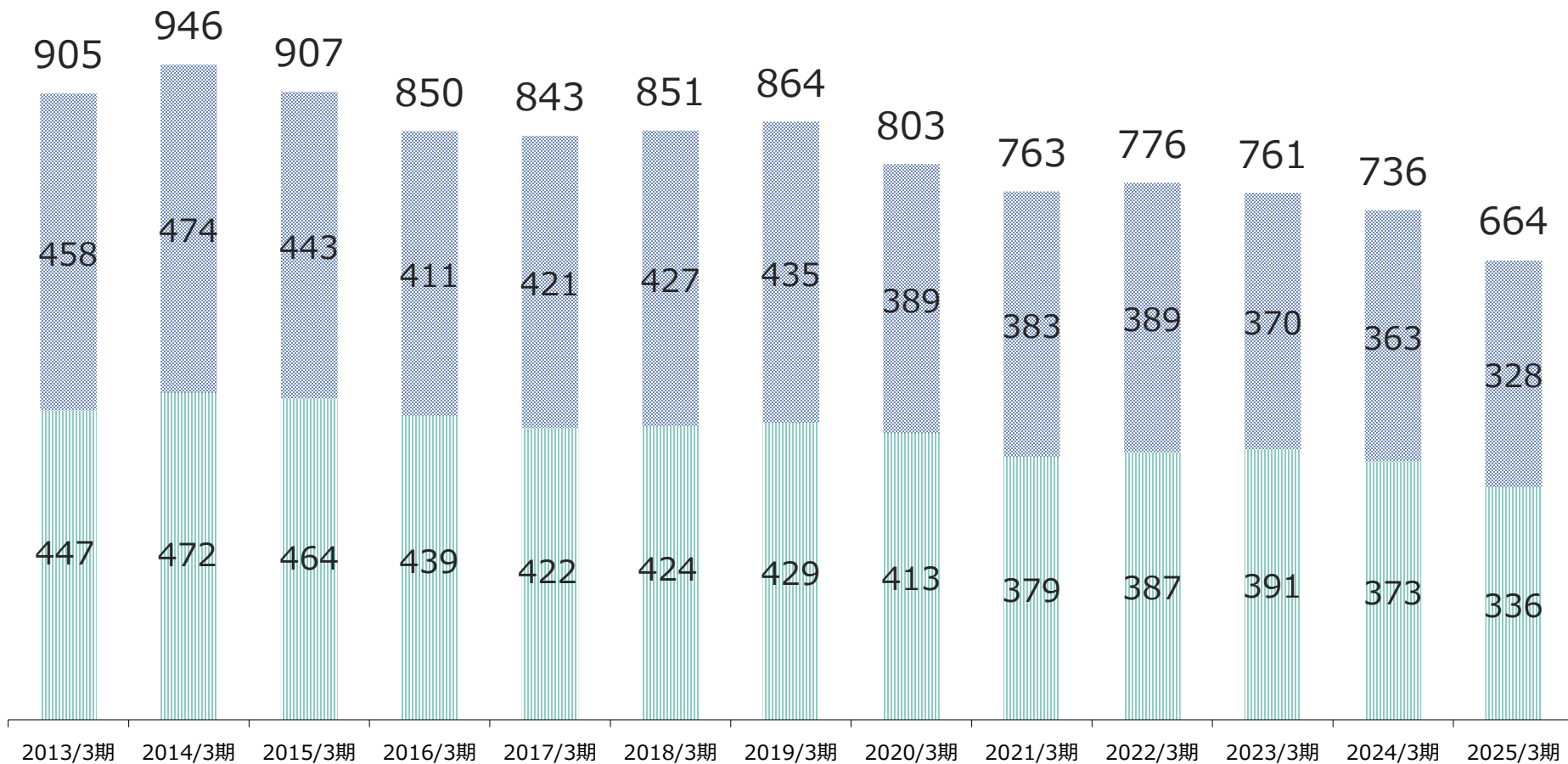


# 参考：全国小形棒鋼生産量推移

・ 2024年度の全国小形棒鋼生産量は664万トン、前期対比▲9.9%

■ 上期 ■ 下期

(万トン)

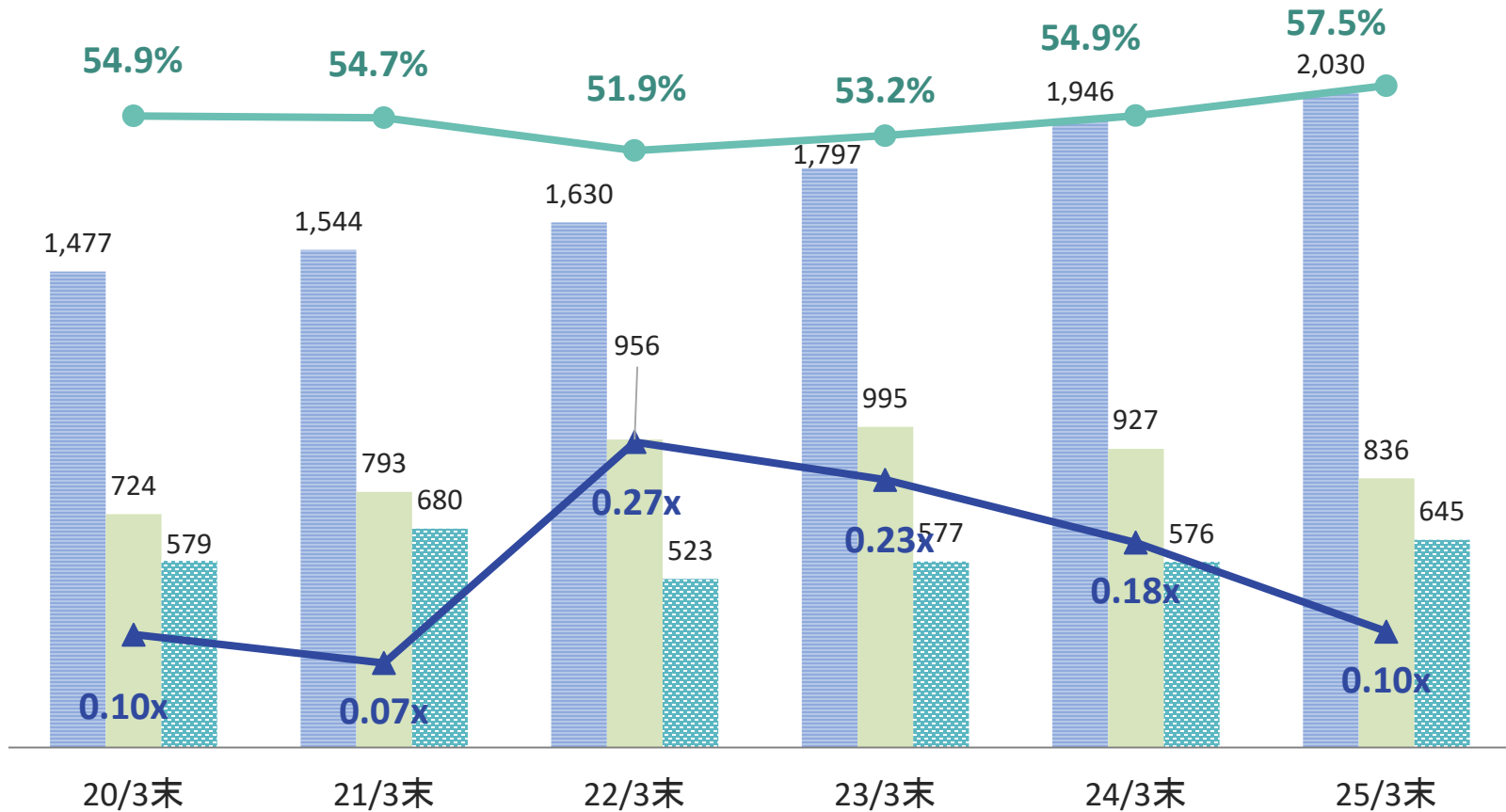


(出典) 日本鉄鋼連盟資料

# 参考：財務指標の推移

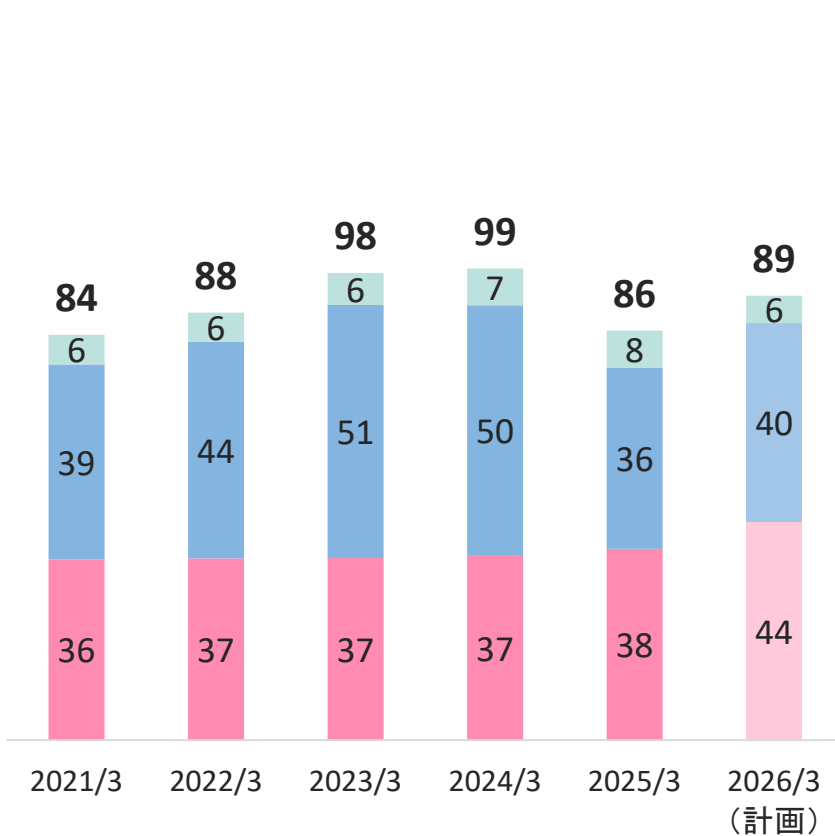
自己資本   有利子負債   現預金   ネットDELシオ   自己資本比率

(億円)

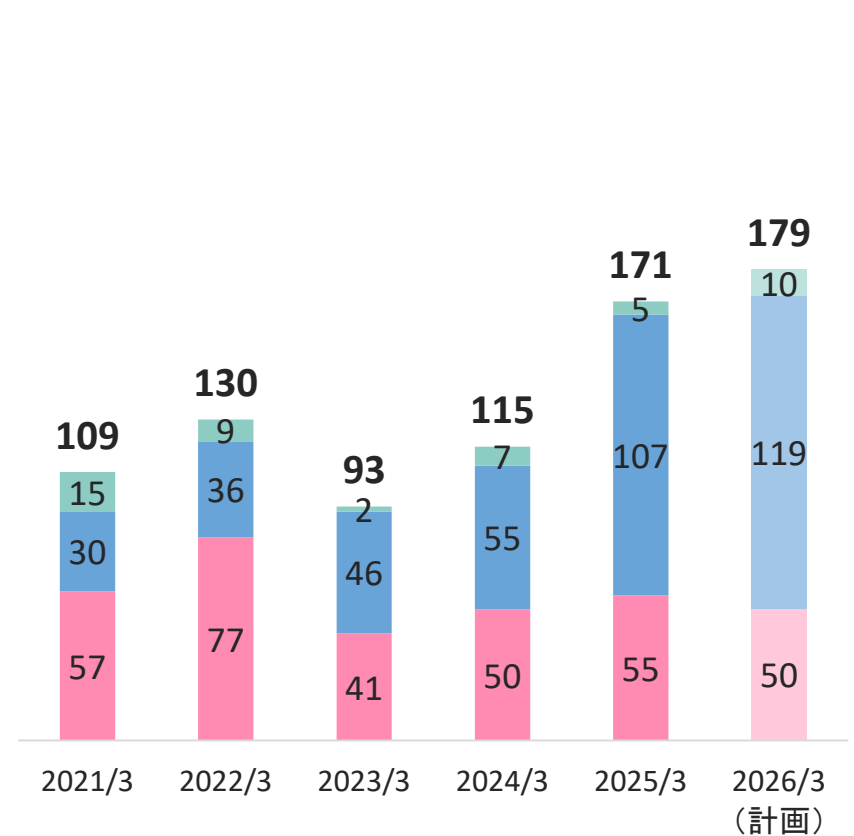


# 参考：減価償却・設備投資の推移

## 減価償却 (億円)



## 設備投資 (億円)



■ 国内鉄鋼 ■ 海外鉄鋼 ■ 環境リサイクル・その他

■ 国内鉄鋼 ■ 海外鉄鋼 ■ 環境リサイクル・その他

※ 合計との差異は調整額

# 参考：「NeXuSⅡ 2026」最終年度 定量目標（KPI）

## 財務KPI

経常利益

250億円

出荷量

400万トン体制  
国内160万トン・海外240万トン

ROE

8%以上

自己資本比率

50%以上

ネットDELシオ

0.5倍以下

配当性向

30～35%

## 非財務KPI

CO<sub>2</sub>排出量

△50%

(2013年度対比2030年目標)

女性総合職比率

15%以上

女性管理職比率

3.0%以上

労働災害

0件/年

教育研修費/人

15万円  
(2022年度の1.5倍)

社会貢献活動支出額

連結当期純利益

0.5%程度

# 参考：当社グループの国内拠点



## 山口事業所

異形棒鋼（全サイズ）、構造用棒鋼、  
小形形鋼（平鋼、Iバー、等辺山形鋼）



## 枚方事業所

異形棒鋼（細物）、丸鋼



## 共英産業(株)

鉄筋加工、鋼材販売ほか



## 共英マテリアル(株)

スクラップ集荷・加工



## (株)吉年 鋳物製造



## (株)共英メソナ

環境リサイクル事業



## 関東事業所

異形棒鋼（細物）



## 名古屋事業所

異形棒鋼（全サイズ）、  
ネジ節鉄筋、高張力鋼

## その他の国内拠点

- ・ 共英リサイクル(株)
- ・ 共英加工販売(株)
- ・ みどり精密工業(株)
- ・ 中山鋼業（持分法適用）



# 参考：当社グループの海外拠点（ベトナム）



- 1** **ベトナム・イタリー・スチール社（VIS社）**  
 ベトナム フンエン省  
 事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、線材）  
 生産能力：製鋼45万トン/年、  
 圧延30万トン/年
- 2** **キョウエイ・スチール・ベトナム社（KSVC社）**  
 ベトナム ニンビン省  
 事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、線材）  
 生産能力：圧延30万トン/年
- 3** **ビナ・キョウエイ・スチール社（VKS社）**  
 ベトナム バリア・ブントウ省  
 事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、丸鋼、形鋼、線材）  
 生産能力：製鋼70万トン/年、圧延90万トン/年
- 4** **チー・バイ・インターナショナル・ポート社（TVP社）**  
 ベトナム バリア・ブントウ省  
 事業内容：港湾事業
- 5** **ビナ・ジャパン・エンジニアリング社（VJE社）**  
 ベトナム ハイフォン市  
 事業内容：鋳鉄製品製品の製造・販売  
 生産能力：9,000トン/年



# 参考：当社グループの海外拠点（北米）



## 1 アルタ・スチール（AltaSteel）社

カナダ アルバータ州

事業内容：鋼材の製造・販売、  
スクラップメタルの処理・販売

生産能力：製鋼30万トン/年  
圧延27万トン/年

設立年：2020年（創業は1955年）

アルタ・スチール  
（アルバータ州）

1

ビントン・スチール  
（テキサス州）

2

## 2 ビントン・スチール（Vinton）社

米国 テキサス州

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、鉄球）

生産能力：製鋼25万トン/年、  
圧延20万トン/年（棒鋼）  
鍛造 5万トン/年（鉄球）

設立年：1962年

